

教育のオンライン化の準備と授業構築

～子どもの命・健康とともに、学びの機会も守るために～

4月になり新入生を迎え、2020年度は、新型コロナウイルスの影響で、2日後に再び臨時休校となるという船出でした。しかしながら、英数学館では、休校に向け、全学年を挙げて、教育のオンライン化の準備に取り組んで参りました。

4月15日の休校開始からの、オンラインによるホームルームや授業の構築など、それらの取り組みをご紹介します。

【4月15日～4月24日】

G Suite for Education (Google) と Zoom を活用

15日より臨時休校が始まりましたが、10日から休校になった場合どのように対応すべきかを話し合ってきました。

学習環境ツールとしてG SuiteとZoomを使うことになりました。これらを使用したことのない教員もおりましたが、急遽全教員・生徒にGoogleのアカウント(本校専用メールアドレス)を発行するなど、いつ休校になってもよいように準備してきました。

13日からは、教員向けのオンライン講習を専門家からオンラインで受けるなど、対面の講習ではなく、全職員が実際にZoomを使いながら、講習を受けました。

生徒にはGoogleやZoomへのログインの仕方や自宅のWi-fi環境が整っているかの調査・確認も同時進行で実施いたしました。これらの対策を休校前に何とか整えることができたことは大きな意味があったと感じています。



最初は、オンラインでホームルームをやってみよう

教員もオンラインには慣れておらず、どのようにするのが生徒の成長につながるかを考え、まずは、全学年・全クラスで、オンライン・ホームルームから始めました。15日の休校初日から実施。各クラス担任が、「出欠確認」や「健康観察」を行いました。生徒にとっても初めてのオンライン・ホームルーム。画面上にクラスメイトと話ができることで、とても盛り上がりました。生徒からも保護者からも好評です。

しかし、生徒も教員も初めてのことでばかりでホームルームの時間になっても接続できない生徒もいました。その事態も事前に想定しておりましたので、初日は朝・昼・午後と3回のホームルームを行い、繋がらない生徒にはその都度電話をかけて、きちんと接続できるかを試しました。

次第にオンライン環境に慣れてくると、画面上に顔が出したくない生徒がいたり、慣れてくるとチャットを始めたりする生徒もいたり課題も見えてきました。しかし、教員からは、「一人ひとりに日々声かけができることはうれしい」との反応が多く、また、保護者からは、「朝の決まった時間にホームルームがあるので規則正しい生活をしてきている」と感謝の言葉もいただきました。ある担任は、「高校3年生を担当しているので、Zoomを使って個別進路面談をしています」と休校中でもできることから実践に移し、最終学年担当教員として、受験や来年の卒業に向けた準備に備えているようでした。



オンラインの授業開始 「まず、やってみよう」が大事！

16日から一部の授業でオンライン授業が始まりました。Zoomを使った双方向の授業を実施する教員もいれば、動画を撮影しYouTubeにアップした動画を生徒に視聴させ、課題に取り組ませる教員もおり、皆、それぞれに試行錯誤しています。

理科担当の教員は、Zoomと別アプリの「GoodNotes」を連動させることで、生徒から「板書が子どもたちの手元に現れるので見やすい」との評価を得ていました。また、事前に配布資料の準備をし、授業で重要なポイントを焦点化できるといった工夫をしている教員も生徒からは好評を博しています。

資料の配布と事後課題の提出はGoogle Classroomで行っています。提出物は生徒が自分で解いたものを撮影して送らせるなど方法は様々です。写真へ書き込みをしたものを返却できるので、プリントをなくすことなく、確実にやり取りができるところにもメリットを感じています。ある授業担当の先生は、「生徒と直接会えないのはさみしいですが、この状況でできる最大限のことを試行錯誤することを楽しんでます。休校が明けた後も、このオンラインシステムについて良い部分は残せるように色々と挑戦をしていきたいと思っています。」と話してくれました。

